

御調町中央浄化センターほか汚水処理施設等
包括的維持管理業務委託

特記仕様書

尾道市上下水道局

目 次

第1条	業務の範囲及び業務対象施設等	2
第2条	業務の内容	2
第3条	処理場の特記事項	3
第4条	電気主任技術者を選任する施設	4
第5条	業務の報告等	4
第6条	保全管理等要求水準	4
第7条	業務実施計画	4
第8条	要求水準を満足しない場合の対応	5
第9条	流入基準未達の場合の対応方法	6
第10条	引継事項	7
第11条	経費の負担	7
第12条	業務委託費の構成と支払い	8
第13条	業務の不履行が確認された場合の対応	9
第14条	契約解除	10
第15条	やむを得ない事由	10
特記別表1		11
特記別表2		12
特記別表3		19
特記別表4		23
特記別表5		24
特記別表6		25
特記別表7		26
別添要領書1		27

(業務の範囲及び業務対象施設等)

- 第1条 御調町中央浄化センターほか污水处理施設等包括的維持管理業務特記仕様書(以下「特記仕様書」という。)に規定する業務の適用範囲は、御調町中央浄化センターの処理施設及び所管施設とする。
- 2 業務の対象施設は、特記別表1に掲げる施設とする。
- 3 業務対象施設・設備の概要(処理場)は、特記別表2に示すとおりとする。
- 4 業務対象施設・設備の概要(マンホールポンプ場)は、特記別表3に示すとおりとする。

(業務の内容)

第2条 一般仕様書第4条に規定する業務の内容は、前条で規定する対象施設について、その設置の目的に適合した運転管理、施設の正常な運転を確保するための保守点検及びその他関連業務とする。また、業務履行において規制を受ける放流水等の規制基準は関係法令の基準を遵守するとともに、要求水準書に示す要求水準を確保すること。

2 業務内容は、次のとおりとする。

(1) 対象施設の運転操作、監視に関する業務

- ア 設備の運転操作、監視及びその記録
- イ 電力、薬品使用量等の監視及び適切な操作
- ウ 各種報告書の作成及び帳票の整理
- エ 緊急時(大雨・台風・地震・その他重大事故等(不時の停電、異常流入水、処理水質の悪化及び機器異常等))における適切な運転、応急処置、原因調査及び発注者への報告
- オ 保守点検に伴う機器の運転操作
- カ 発注者が行う修繕、工事等に伴う機器の確認及び運転操作(既設設備を利用する場合の排水作業、その他の作業等)
- キ 建築付帯設備(給排気、空調設備等)の運転操作
- ク 沈砂及びスクリーンかす排出及び場内運搬作業
- ケ 脱水汚泥運搬に関する業務
- コ マンホールポンプ場故障により送水不能となった場合の初期対応(バキューム車の手配や仮設ポンプ類の設置等)
- サ その他施設の運転操作、監視に関する必要な業務

(2) 対象施設の保守点検に関する業務

- ア 対象施設の日常点検、定期点検、臨時点検、定期自主点検、測定及びその記録、報告
- イ 電気工作物保安規程及び機械電気設備保守点検基準による日常点検及びその記録、報告
- ウ 当該施設の電気主任技術者の選任
- エ 業務仕様明細4、5に示す定期点検及びその記録、報告
- オ 簡易な故障修理(特殊機器部品、専門技術を要しないもの。)、補修及び補修塗装並びにその記録
- カ 分解清掃作業(閉塞物の除去、消耗品の交換等)の実施
- キ 業務仕様明細4、5に示す管理上必要な法定検査等(法定検査の立会い含む。)
- ク 業務仕様明細4、5に示す管理上必要な検査等
- ケ 緊急時(大雨・台風・地震・その他重大事故等(不時の停電、異常流入水、処理水質の悪化及び機器異常等))における点検巡視
- コ 機器の予備品の管理
- サ 貸与品等の管理(共用する物を含む。)
- シ その他保守点検に関する必要な業務

(3) 水質分析等に関する業務

- ア 特記別表 4 に示す水質試験（試料採取、試験、報告を含む。）
- イ 特記別表 4 に示す汚泥試験（試料採取、試験、報告を含む。）
- ウ 特記別表 4 に示す水質試験補助
- エ 水質計測機器等の維持管理
- オ 薬品の保管・管理
- カ 廃液の管理・処分
- キ その他水質分析等に関する必要な業務
- （4）施設管理に関する業務
 - ア 建物及び周辺の清掃、除草及び樹木管理
 - イ 施設の警備及び防火管理
 - ウ その他施設管理に関する必要な業務
- （5）物品等の調達・管理に関する業務
 - ア 特記別表 5 に示す物品等の調達及び管理
 - イ 物品等には、備消耗品である電気・機械設備用消耗品・交換部品（潤滑油脂類、各フィルター類、リレー、マグネット、アイソレータ等）、雑品類（ボルト、パッキン、ウエス、洗油等）、工具（特殊工具含む）、各種材料（電線・電線管類、配管材料、鋼材）、補修用塗料類、理化学器具類、分析用薬品、掃除用具類、記録紙、用紙類、インク、コピー、燃料類（作業用、車両用等）、衛生用品（石鹼、消毒液、救急用薬品）、備品類（連絡用自動車）等も含まれる。
 - ウ 物品等の受け入れ立会い
 - エ 消耗品の交換
 - オ その他物品等の調達・管理に関する業務上必要な業務
- （6）産業廃棄物収集運搬に関する業務
 - ア 本件施設から生じる脱水汚泥、し渣、沈砂等の収集運搬
 - イ 脱水汚泥、し渣、沈砂等の搬出時立ち会い、搬出数量の記録
- （7）廃棄物処理に関する業務
 - ア 業務上発生した一般廃棄物の管理及び処理
 - イ その他廃棄物処理に関する必要な業務
- （8）その他の業務
 - ア 周辺住民からの苦情対応等
 - イ 施設見学会の事前準備（安全対策含む。）（1 回／年程度）
 - ウ その他必要な業務

（処理場の特記事項）

第 3 条 当該施設の特記事項を以下に示す。

- （1）御調町中央浄化センター
 - ア 硝化促進運転の実施

アンモニア除去を目的とした硝化促進運転を行うこと。
 - イ 臭気対策の実施

周辺住民に対して十分な配慮を行い、脱臭設備の設置及び脱水汚泥搬出時の臭気低減対策等を行っているが、日常の運転管理においても細心の注意を払うとともに、必要に応じて脱臭剤を使用し、適切な臭気対策を実施すること。
 - ウ 雨天時対応

雨天時等増水時におけるポンプの運転操作については、適切に対処し、溢水及び放流水の水質悪化等に留意すること。

(2) 御調町東部浄化センター

ア 硝化促進運転の実施

アンモニア除去を目的とした硝化促進運転を行うこと。

イ 臭気対策の実施

周辺住民に対して十分な配慮を行い、脱臭設備の設置及び脱水汚泥搬出時の臭気低減対策等を行っているが、日常の運転管理においても細心の注意を払うとともに、必要に応じて脱臭剤を使用し、適切な臭気対策を実施すること。

ウ 雨天時対応

雨天時等増水時におけるポンプの運転操作については、適切に対処し、溢水及び放流水の水質悪化等に留意すること。

(電気主任技術者を選任する施設)

第4条 一般仕様書第15条に規定する電気主任技術者を選任する施設は、業務仕様明細書4に示す施設とする。

(業務の報告等)

第5条 受注者は、一般仕様書第20条に規定する業務報告書等について、特記別表6に従い業務日誌・毎月及び年間の業務報告書を作成し、帳票を含めて発注者に提出するものとする。

2 前項の様式は、受注者の提案に基づき、発注者の承認を得たものとする。

3 受注者は、毎月及び年間の業務報告書の提出にあたっては、発注者が指定する完了届とともに提出すること。

4 受注者は、年間の業務報告書の提出にあたっては、技術提案書に提案した事項に関する達成状況の客観的な評価について報告しなければならない。なお、評価が未達成の場合にあつては、次年度に確実に達成できる実現化方策等の提案を含めること。

5 受注者は、契約終了にあたっては、全業務期間の履行が確認できる資料を添え業務報告書を発注者に提出しなければならない。

6 その他、発注者が求める事項に関する報告書は、その都度速やかに提出すること。

7 書類は日本工業規格A4版又はA3版用紙にて作成するものとする。

(保全管理等要求水準)

第6条 保全管理等要求水準は、施設機能が劣化しないよう、日常的な保守点検等を行うことで、施設の状態を正常な状態に維持すること（ただし、経年劣化を除く）。

契約期間終了時、全ての施設が通常の施設運営を行うことができる機能を有し、著しい損傷がない状態となるよう、関係法令等を遵守した点検、調整、消耗品の交換等を行うこと。

建築物や外構、植栽等の保守管理や清掃については、現状と比べて美観を損なわない程度で行うこと。

定期的な施設機能の確認の場において、発注者と受注者において、指摘事項が発生した場合は、誠意を持って対応する。

(業務実施計画)

第7条 業務実施計画書は、日本工業規格A版により作成し、原則としてA4又はA3用紙とすること。業務実施計画書を構成する各諸事項の作成要領は、次のとおりとすること。

(1) 実施方針

下水道施設の重要性に鑑み、その目的を達成するための委託業務における管理思想、業務毎の基本方針及びその概要等について、委託業務に対する姿勢が把握できるよう記載すること。

(2) 業務実施体制

運転管理業務を遂行する上で必要な組織及び体制について、現場組織、業務分担、緊急時体制、その他業務の履行に要する組織・体制（下請け関係も含む）を、その目的と系統及び分担等が明確に把握できるよう記載すること。

（３） 安全管理体制

事故、災害等を未然に防止し、安全に委託業務を遂行するための安全衛生管理に係る作業基準、安全衛生に関する計画及び組織体制について、基準、要領、計画等を具体的に記載すること。

（４） 運転管理計画

運転管理計画では、対象施設を安定的に維持運営していくために、水質管理計画、エネルギー管理計画、ユーティリティ調達管理計画を記載すること。

水質管理計画では、処理場等の安定的な維持を考慮した設備ごとの運転操作指標、運転方法等を定めた運転操作基準、要求水準を達成するための管理基準、要求水準を満足するための分析計画（水質試験、汚泥試験、悪臭測定等）等を記載すること。

エネルギー管理計画は、処理場等の省エネルギーを目指した設備ごとの運転操作指標、運転方法等を定めた運転操作基準、要求水準を達成するための管理基準等を記載すること。

ユーティリティ調達管理計画は、下水道施設の維持管理を行うために必要な電力、燃料、副資材等の調達方法、使用予定量等を、年間を通じての使用計画が把握できるよう記載すること。

（５） 保安全管理計画

保安全管理計画では、対象施設を安定的に維持運営していくために、保守点検計画、修繕計画を記載すること。

保守点検計画では、設備の状態を把握し、異常の有無を確認する点検基準（日常点検、定期点検、法定点検等）、消耗品等の確認、補充、交換等を行う保守基準を記載すること。

修繕計画では、別紙１に示す全ての電気設備、機械設備、建築設備の修繕（一件当たりの金額が一定額以下のもの）が必要となった場合の対応手順を、具体的に記載すること。

（６） 施設管理計画

施設を安定的に維持運営していくため、清掃の内容・清掃頻度・清掃要領、除草等の内容・頻度・方法、物品管理の方法、要領等その他の必要な事項について、具体的に記載すること。

（７） 情報管理方法

運転管理、保安全管理に係る各種情報の管理方法を記載すること。

（８） 緊急時等への対応

施設に事故が発生した場合その他緊急の場合の対応手順を、具体的に記載すること。以下のような場合について、各々記載する。

- ・大雨時の対応（第９条に示す「対応可能である雨天時浸入水等」の場合と、それを上回る場合を区分して記載する、また、第９条と矛盾しないこと）
- ・悪質流入水の対応（第９条に示す「対応可能な悪質流入水」の場合と、それに該当しない場合を区分して記載する、また、第９条と矛盾しないこと）
- ・その他、自然災害等の不可抗力時の対応

（要求水準を満足しない場合の対応）

第８条

（１） 放流水質

処理水の水質が、受注者の自主採水で判明した場合や計量証明で判明した場合等、別紙５に示す放流水質基準を満足できない場合、以下のような手続きをとる。

第１段階：未達の確認、報告

受注者は、水質測定により放流水質が放流水質契約基準、放流水質法定基準を満たしていないことを把握したら、直ちに発注者に報告する。また、放流水質法定基準を満たしていない場合は、受注者が応急措置を行う。

第２段階：改善期間、改善計画書の提出

・流入水が流入基準を満たしているにもかかわらず、要求水準所に示す放流水質契約基準又は放流水質法定基準が達成されなかったときは、受注者は、原則として主体的に要求水準未達の原因究明を行い、改善措置を行う。また、受注者は改善計画書を作成し発注者に提出する。

・流入水が流入基準を満たさなかった場合においても、受注者は、放流水質契約基準又は放流水質法定基準を達成することができるよう努めるものとし、発注者から指示がある場合はそれに従うものとする。

・原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担する。ただし、発注者と受注者の双方に責を帰すことができない事由により要求水準が満たせない場合には、受注者は上記に係る費用を発注者に請求することができる。

・受注者は、自らの負担で行う水質測定において、改善措置の効果を確認し、放流水質契約基準を満足できるようになるまで、改善状況を発注者に報告する。

第3段階：業務委託費の減額

・流入水が原因である場合及び発注者と受注者の双方に責を帰すことができない事由により要求水準が満たせない場合による場合を除き、特記仕様書のとおり業務委託費を減額する。

第4段階：契約解除、違約金

・流入水が原因である場合及び発注者と受注者の双方に責を帰すことができない事由により要求水準が満たせない場合による場合を除き、放流水質契約基準を満足できない状態が60日以上継続する場合、又は改善計画書が期限内に提出されない場合や改善計画書通りに業務を行わない場合、発注者は契約を解除することができる。この場合、受注者は、定められた違約金を支払う。

(2) 汚泥処理基準

脱水ケーキ含水率が、要求水準書に示す契約基準を満足できない場合、以下のような手続きをとる。

第1段階：未達の確認、報告

・受注者は、汚泥含水率分析により契約基準を満たしていないことを把握したら、直ちに発注者に報告する。

第2段階：改善期間、改善計画書の提出

・契約基準未達の場合には、受注者は、原則として主体的に契約基準未達の原因究明を行い、改善措置を行う。また、受注者は改善計画書を作成し発注者に提出する。

・原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担する。ただし、発注者と受注者の双方に責を帰すことができない事由により契約基準が満たせない場合には、受注者は上記に係る費用を発注者に請求することができる。

・受注者は、自らの負担で行う分析において、改善措置の効果を確認し、契約基準を満足できるようになるまで、改善状況を発注者に報告する。

第3段階：業務委託費の減額

・発注者と受注者の双方に責を帰すことができない事由により契約基準が満たせない場合による場合を除き、特記仕様書のとおり業務委託費を減額する。

第4段階：契約解除、違約金

・発注者と受注者の双方に責を帰すことができない事由により契約基準が満たせない場合による場合を除き、契約基準を満足できない状態が60日以上継続する場合、又は改善計画書が期限内に提出されない場合や改善計画書通りに業務を行わない場合、発注者は契約を解除することができる。この場合、受注者は、定められた違約金を支払う。

(流入基準未達の場合の対応方法)

第9条 受注者が責任を持って対応すべき事態とその対応方法を記載する。

(1) 対応可能な悪質流入水

対応可能な悪質流入水は、以下のとおりとする。

- ・大量の油（臭気又は色で識別できる範囲のもの）
- ・大量の強酸性又は強アルカリ性の薬品（pH計にて検出できる範囲のもの）
- ・大量のきょう雑物

流入ゲートにおける流入水の臭気、色やpHの監視の結果、上記に示すものが流入水に混入していることが判明した場合、受注者は以下の措置をとる。

- ・受注者は、上記の物質がエアレーションタンクへ流入しないよう必要な措置をとるものとする。
- ・速やかに発注者に報告するものとする。

（２） 対応可能である雨天時浸入水等

降雨時には、以下の対応を取る。

- ・受注者は、気象情報を随時確認し、水害発生を事前に把握するほか、沈砂池水位等の監視を行うものとする。（監視箇所を規定）
- ・受注者は、流入水の水量が別紙４に示す時間最大流入水量を上回った場合であっても、場内ポンプ場で対応できる場合は、適切な運転により処理を行う。

なお、上記の措置で対応できない大雨の場合は、速やかに発注者に報告し、発注者から指示がある場合はそれに従うものとする。

（３） 記載についての留意点

流入基準未達が発生した場合に、受注者が迅速に行動できるよう、対応方法は具体的な手順として記述する。

（引継事項）

第１０条 受注者は履行期間を通じて、引継事項を記載した文書を作成する。文書は、対象施設固有の運転管理、点検上の留意点等を次の受注者が把握できるような内容とする。以下の項目に沿って記載すること。

（１） 運転管理計画

- ・水質管理方法
- ・定常時の運転方法
- ・非常時の運転方法
- ・特有の運転方法

（２） 保全管理計画

- ・定常時の保全方法
- ・非常時の保全方法

（３） その他留意事項

- ・特性、固有情報
- ・運転、保全実績 等

（経費の負担）

第１１条 受注者が負担すべき経費は、以下のとおりとする。

- （１） 机、椅子、書棚、ロッカー、パソコン、プリンター、コピー機等の事務備品
- （２） 各種用紙、筆記用具、ファイル等の事務用品
- （３） ポット、冷蔵庫、食器棚、茶器、台所用品等の什器及び消耗品
- （４） 各種作業服、各種靴、各種手袋、ヘルメット、安全マスク・保護眼鏡・空気呼吸機等の安全保護具・機器
- （５） 設備点検及び修理に係る点検工具、回路計、懐中電灯等の工具・器具。ただし、特殊工具及び調整・整備に係る資材等は除く。
- （６） モップ、デッキブラシ、水切り等の清掃用具器具
- （７） 電話・FAXの設置工事費及び維持費
- （８） 表９に定める変動費（薬品費、電力料、水道料）
- （９） 表９に定める固定費（消耗品費、燃料費）

- (10) 1件当たり200万円以下の修繕費（総額で年間275万円を限度とする）
- (11) 作業員控室や用具置き場の使用料（有償で貸与する場合）
- (12) 作業員及び事務員の業務管理、現地事務業務等に係わる人件費

（業務委託費の構成と支払い）

第12条 業務委託費の構成と支払いを以下に示す。

（1）構成と支払い

業務委託料は、水量の増減によるコストの影響を考慮するため、基本的に固定費と変動費で構成される計算方法を採用する。固定費は、人件費や電力基本料金等、処理水量にかかわらず要する費用、変動費は薬品や電力従量料金等、処理水量に応じて変動する費用である。

委託料を令和8年4月分から令和13年3月分の60月分を概ね60等分し、毎月の委託業務終了後、当該月の委託料について請求を受けた日から30日以内に支払う。

（2）業務委託費の考え方

発注者が受注者に支払う業務委託費は、以下の算式によって算定される。

$$(\text{業務委託費}) = (\text{固定費}) + (\text{変動費})$$

$$(\text{変動費}) = (\text{変動費原単位}) \times (\text{処理水量（実績値）})$$

ここで固定費とは、本施設における流入水量（実績値）の増減にかかわらず変動しない費用をいい、変動費とは、本施設における流入水量（実績値）の増減に応じて比例的に増減する費用をいう。

履行期間中の固定費の合計額と変動費の区分は、表に示すとおりとする。毎事業年度における変動費は、毎事業年度の流入水量の実績値に応じて算出する。

表9 固定費と変動費の区分

	固定費	変動費
薬品費		○
電力料		○
水道料		○
消耗品費	○	
燃料費	○	
通信費	○	
維持管理業務費	○	
汚泥運搬費		○
修繕・保守点検費	○	

（3）流入水が要求水準書に示す流入基準を満たしている場合

（基準外であるが発注者と受注者で対応可能と合意した場合を含む）

①放流水質が要求水準書に示す契約基準を満たしている場合、固定費＋変動費の全額を支払う。

②放流水が要求水準書に示す法定基準又は汚泥処理基準のいずれかを満たしていない場合、業務委託費を減額する。

減額幅は、以下に従って算出する。

- ・年間に3回以上契約基準に対する未達がある場合は、当該年度の業務委託費（固定費）を3%減額する。
- ・年間に5回以上契約基準に対する未達がある場合、及び2回以上法定基準に対する未達がある場合は、当該年度の業務委託費を8%減額する。

(4) 流入水量が要求水準書に示す基準を超えているが、特別な処理等で対応できる場合（第9条の「対応可能である雨天時浸入水等」に相当する場合）

① 流入水量が基準を超えている場合でも、発注者が受注者に支払う業務委託費は、以下の算式によって算定する。

$$(\text{業務委託費}) = (\text{固定費}) + (\text{変動費原単位}) \times (\text{処理水量})$$

② 「対応可能である雨天時浸入水等」に相当する場合、要求水準書に示す契約基準を満たさない場合でも、業務委託費の減額は行わない。この時、放流水が要求水準書に示す法定基準又は汚泥処理基準を満たしていないことによる法令上の罰金等や第三者からの損害賠償は発注者が負担するものとする。

(5) (4)以外に流入水質が要求水準書に示す基準を超えた場合

① 放流水質が要求水準書に示す法定基準を満たし、かつ汚泥処理基準の両方とも満たしている場合、発注者が受注者に支払う業務委託費は、以下の算式によって算定される。

$$(\text{業務委託費}) = (\text{固定費}) + (\text{変動費原単位}) \times (\text{処理水量}) + (\text{追加費用})$$

ここで追加費用とは、流入基準を満たさない流入水进行处理して放流水質法定基準を満たすために要する費用をいう。

② 放流水が要求水準書に示す法定基準又は汚泥処理基準のいずれかを満たしていない場合でも、業務委託費の減額は行わない。この時、放流水が要求水準書に示す法定基準又は汚泥処理基準に示す基準を満たしていないことによる法令上の罰金等や第三者からの損害賠償は発注者が負担するものとする。

(6) 第6条に示す保全管理等要求水準に示された業務が履行されていない場合、固定費を減額する。

減額幅は、以下に従って算出する。

$$\text{減額料} = \text{「固定費」} \times \text{「業務実施計画不履行日数」} \div \text{基準日数} 241 \text{日} \times 0.5$$

業務実施計画不履行日数とは、改善期間終了日の翌日から是正されたことを発注者が確認した日までの日数をいう。委託料の減額は、実施計画不履行が是正されたことを発注者が確認し、委託料の変更協議が整った月の委託料で行う。

(業務の不履行が確認された場合の対応)

第13条 業務実施計画書に記載された業務を履行していないことが確認された場合、以下のような手続きをとる。

(1) 第1段階 業務状況の確認

ア 発注者は、受注者から提出された各月の報告書により、受注者が業務実施計画書に基づき当該業務を履行していることを確認する。

イ 発注者は、受注者の履行状況について監視を行うために施設に立ち入り、受注者が業務実施計画書に基づき当該業務を履行していることを確認する。

(2) 第2段階 改善措置

ア 発注者は、受注者が業務実施計画書に基づき当該業務を履行していないおそれがある場合、発注者は受注者に説明を求める。その結果、業務実施計画書に基づき、当該業務が履行されていないと発注者が認めた場合、発注者は受注者には是正（業務実施計画書の変更を含む。）を求めることができる。

イ 受注者は前項を受け、速やかに改善計画書を作成し、発注者の確認を受ける。なお、発注者は必要なときには受注者が作成する改善計画書の提出期限を定めることができる。

ウ 受注者は改善計画に従って業務の改善を行う。

エ 受注者は改善がなされた場合、速やかに発注者に報告する。報告を受けた後、発注者は速やかに検査を行い、是正状況を確認する。

オ 改善計画の作成等にかかる費用は受注者が負担するものとする。

(3) 第3段階：発注費の減額

ア 改善計画書に定めた改善期間を過ぎて改善が完了しない場合、発注者は発注額を減額する。

(契約解除)

第14条 本契約の解除は以下の場合とする。

- (1) 改善計画書が速やか又は発注者が指定した期間内に提出されない場合。
- (2) 改善計画書どおりに業務を行わない場合。
- (3) 発注者が行う改善措置の指示に従わない場合。

(やむを得ない事由)

第15条 やむを得ない事由を以下のとおりとする。

- (1) 自然災害等により施設が破損又は停止し処理機能が得られない場合。
 - (2) 流入基準を著しく逸脱した流入水が流入したと認められた場合。
- 2 前項で規定する流入基準を著しく逸脱した流入水が流入したと認められた場合は特記別表7の要件を満たし処理が困難と判断された場合とする。

特記別表1

業務対象施設一覧

No	処理場	備考
No.1	御調町中央浄化センター	※1
No.2	御調町東部浄化センター	※1

(備考欄) ※1 電気主任技術者選任施設

No	マンホールポンプ(市処理区)	備考
No.1	三谷屋駐車場横	
No.16	平松自動車横	
No.19	高垣瓦裏	
No.37	八木診療所前	
No.64	長尾宅横	
No.75	御調商店街	
No.101	中国バス裏	
No.105	和木電機横	
No.140	小和田サッシ	
No.141	金野宅口	
No.160	消防器具庫横	
No.183	さつき団地	
No.200	旧神西住宅	
No.206	岡田車輛横	
No.210	そふとう橋	

No	マンホールポンプ(上川辺処理区)	備考
No.1	府中市谷組	
No.2	大蔵タイコウタウン	
No.3	大蔵集会所	
No.4	上川辺公民館	
No.5	白太 横田横	
No.6	本 浦上宅横	
No.7	本 森高石油	
No.8	本 天理教前	
No.9	中根橋	
No.10	平 江国川	
No.11	中原集会所	

特記別表2

対象機器一覧表 (No.1)

《中央浄化センター・機械設備関係》

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0010	スリーユニット	分 配 槽
0020	No.1分水槽可動堰	分 配 槽
0030	No.2分水槽可動堰	分 配 槽
0040	No.1汚水ポンプ	汚 水 ピ ッ ト
0050	No.2汚水ポンプ	汚 水 ピ ッ ト
0060	No.3汚水ポンプ	汚 水 ピ ッ ト
0070	汚水ポンプ吊上げ機	汚 水 ピ ッ ト
0080	No.1返流水ポンプ	汚 水 ピ ッ ト
0090	No.2返流水ポンプ	汚 水 ピ ッ ト
0100	No.1OD流出堰	オキシデーションディッチ
0110	No.2OD流出堰	オキシデーションディッチ
0120	No.1エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0130	No.2エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0140	No.3エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0150	No.4エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0160	No.1終沈汚泥掻寄機	最 終 沈 澱 池
0170	No.2終沈汚泥掻寄機	最 終 沈 澱 池
0180	No.1スカムスキマー	最 終 沈 澱 池
0190	No.2スカムスキマー	最 終 沈 澱 池
0200	No.1スカムかご	最 終 沈 澱 池
0210	No.2スカムかご	最 終 沈 澱 池
0220	し渣かご吊上げ装置	最 終 沈 澱 池
0230	No.1返送汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0240	No.2返送汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0250	No.3返送汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0260	No.4返送汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0270	No.1汚泥切替弁	汚 泥 ポ ン プ 室
0280	No.2汚泥切替弁	汚 泥 ポ ン プ 室
0290	床排水ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0300	No.1濃縮汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0310	No.2濃縮汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0320	塩素注入器	塩 素 混 和 池
0330	放流渠逆止弁	塩 素 混 和 池
0340	脱臭ファン	濃 縮 タ ン ク
0350	脱臭装置	濃 縮 タ ン ク
0360	汚泥計量槽	濃 縮 タ ン ク
0370	濃縮槽攪拌機	濃 縮 タ ン ク
0380	貯留槽攪拌機	濃 縮 タ ン ク
0390	給水ユニット	管 理 棟
0400	洗浄水ポンプ	場 内
0410	浅井戸ポンプ	場 内
0420	貯留槽攪拌機	場 内
0430	貯留槽ブロワ	場 内

特記別表2

対象機器一覧表 (No.2)

《中央浄化センター・電気設備関係》

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0010	引込受電盤	管 理 室
0020	変圧器	管 理 室
0030	低圧分岐盤	管 理 室
0040	補助継電器1	管 理 室
0050	補助継電器2	管 理 室
0060	補助継電器3	管 理 室
0070	No.1・2VVVF装置	管 理 室
0080	No.3・4VVVF装置	管 理 室
0090	コントロールセンタ	管 理 室
0100	コントロールセンタ	管 理 室
0110	コントロールセンタ	管 理 室
0120	コントロールセンタ	管 理 室
0130	接地端子盤	管 理 室
0140	ミニUPS	管 理 室
0150	計 装	管 理 室
0160	監視1	管 理 室
0170	監視2	管 理 室
0180	シーケンサ	管 理 室

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0190	No.2非常通報装置	管 理 室
0200	自家発電装置用ディーゼルエンジン	自 家 発 電 室
0210	自家発電装置	自 家 発 電 室
0220	発電機盤	自 家 発 電 室
0230	消音機	自 家 発 電 室
0240	燃料槽	自 家 発 電 室
0250	鉛蓄電池	自 家 発 電 室
0260	汚水ポンプ現場操作盤	汚 水 ピ ッ ト
0270	流入ポンプ井水位計	汚 水 ピ ッ ト
0280	No.1警報	汚 水 ピ ッ ト
0290	No.1・2曝気機現場操作盤	オキシデーションディッチ
0300	No.3・4曝気機現場操作盤	オキシデーションディッチ
0310	No.1DO計	オキシデーションディッチ
0320	No.2DO計	オキシデーションディッチ
0330	No.3警報	オキシデーションディッチ
0340	汚水ポンプ室床排水ポンプ操作盤	汚 泥 ポ ン プ 室
0350	No.1・2返送・余剰汚泥ポンプ操作盤	汚 泥 ポ ン プ 室
0360	No.3・4返送・余剰汚泥ポンプ操作盤	汚 泥 ポ ン プ 室

特記別表2

対象機器一覧表 (No.3)

《中央浄化センター・電気設備関係》

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0370	濃縮汚泥ポンプ現場操作盤	汚 泥 ポ ン プ 室
0380	No.2警報	汚 泥 ポ ン プ 室
0390	No.1終沈汚泥掻寄機現場操作盤	最 終 沈 澱 池
0400	No.2終沈汚泥掻寄機現場操作盤	最 終 沈 澱 池
0410	No.1汚泥界面計	最 終 沈 澱 池
0420	No.2汚泥界面計	最 終 沈 澱 池
0430	脱臭装置・貯留槽ブロワ操作盤	濃 縮 タ ン ク
0440	全窒素・全りん計	塩素混和池
0450	UV計	塩素混和池
0460	放流流量計	塩素混和池
0470	脱水作業盤	場 内
0480	洗浄水ポンプ現場操作盤	場 内
0490	No.1返送汚泥流量計	場 内
0500	No.2返送汚泥流量計	場 内
0510	貯留槽液位計	場 内
0520	柱上気中開閉器	場 内

特記別表2

対象機器一覧表 (No.4)

《 東部センター・機械設備関係 》

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0010	No.1汚水ポンプ	汚 水 ピ ッ ト
0020	No.2汚水ポンプ	汚 水 ピ ッ ト
0030	汚水ポンプ吊上げ機	汚 水 ピ ッ ト
0040	予旋回槽	汚 水 ピ ッ ト
0050	し渣かご	汚 水 ピ ッ ト
0060	汚泥計量分配槽	オキシデーションディッチ
0070	No.1エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0080	No.2エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0090	No.3エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0100	No.4エアレーション装置	オキシデーションディッチ
0110	エアレーション装吊上げ機	オキシデーションディッチ
0120	終沈汚泥掻寄機	オキシデーションディッチ
0130	スクリーンユニット	オキシデーションディッチ
0140	スカムスキマー	最 終 沈 澱 池
0150	濃縮汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0160	No.1汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0170	No.2汚泥ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0180	床排水ポンプ	汚 泥 ポ ン プ 室
0190	濃縮汚泥掻寄機	濃 縮 タ ン ク

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0200	貯留槽攪拌機	濃 縮 タ ン ク
0210	汚泥観察槽	濃 縮 タ ン ク
0220	塩素接触装置	塩 素 混 和 池
0230	給水ユニット	塩 素 混 和 池
0240	No.1雑用水ポンプ	塩 素 混 和 池
0250	No.2雑用水ポンプ	塩 素 混 和 池
0260	脱臭ファン1	汚 泥 処 理 棟
0270	脱臭ファン2	汚 泥 処 理 棟
0280	脱臭塔	汚 泥 処 理 棟
0290	ミストセパレーター1	汚 泥 処 理 棟
0300	ミストセパレーター2	汚 泥 処 理 棟
0310	汚泥供給ポンプ	汚 泥 処 理 棟
0320	曝気ブロワ	汚 泥 処 理 棟
0330	サイレンサー	汚 泥 処 理 棟
0340	可動式自動バースクリーン	場 内
0350	土壌脱臭床	場 内
0360	井戸ポンプ	場 内
0370	ストレーナ	場 内

特記別表2

対象機器一覧表 (No.5)

《東部浄化センター・電気設備関係》

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所	機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0010	引込受電盤	管 理 室	0190	排ガス用消音器	自 家 発 電 室
0020	変圧器	管 理 室	0200	排ガス用消音器	自 家 発 電 室
0030	低圧分岐盤	管 理 室	0210	発電機補機盤	自 家 発 電 室
0040	接地端子盤	管 理 室	0220	燃料タンク	自 家 発 電 室
0050	ミニUPS	管 理 室	0230	汚水ポンプ現場操作盤	汚 水 ピ ッ ト
0060	計 装	管 理 室	0240	汚水ピット水位計	汚 水 ピ ッ ト
0070	監視操作	管 理 室	0250	No.1・2曝気機現場操作盤	オキシデーションディッチ
0080	水処理設備補助継電器1	管 理 室	0260	No.3・4曝気機現場操作盤	オキシデーションディッチ
0090	水処理設備補助継電器2	管 理 室	0270	雑用水ポンプ現場操作盤	オキシデーションディッチ
0100	コントロールセンタ	管 理 室	0280	DO計	オキシデーションディッチ
0110	コントロールセンタ	管 理 室	0290	汚泥ポンプ現場操作盤	汚 泥 ポ ン プ 室
0120	No.1非常通報装置	管 理 室	0300	濃縮汚泥ポンプ現場操作盤	汚 泥 ポ ン プ 室
0130	自家発電装置用ディーゼルエンジン	管 理 室	0310	汚泥ポンプ室床排水ポンプ操作盤	汚 泥 ポ ン プ 室
0140	自家発電装置	管 理 室	0320	終沈汚泥掻寄機現場操作盤	最 終 沈 澱池
0150	鉛蓄電池	管 理 室	0330	濃縮汚泥掻寄機現場操作盤	濃 縮 タ ン ク
0160	発電機盤	管 理 室	0340	作業用電源現場操作盤	濃 縮 タ ン ク
0170	給気装置	管 理 室	0350	脱水電源現場操作盤	汚 泥 処 理 棟
0180	排気装置	自 家 発 電 室	0360	貯留槽攪拌機現場操作盤	汚 泥 処 理 棟

《 東部浄化センター・電気設備関係 》

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0370	曝気ブロワ現場操作盤	汚 泥 処 理 棟
0380	脱臭ファン1現場操作盤	汚 泥 処 理 棟
0390	脱臭ファン2現場操作盤	汚 泥 処 理 棟
0400	汚泥貯留槽液位計	汚 泥 処 理 棟
0410	全窒素・全りん計	塩素混和池
0420	UV計	塩素混和池
0430	放流流量計	塩素混和池
0440	柱上気中開閉器	場 内
0450	井戸ポンプ現場操作盤	場 内
0460	土壌脱臭床散水弁現場操作盤	場 内

《移動脱水車機器設備関係》

機器番号	機 器 名 称	設 置 場 所
0010	圧入式外筒回転型スクリーブレス脱水機	移動脱水車車載
0020	凝集剤混和槽	移動脱水車車載
0030	汚泥サービスタンク	移動脱水車車載
0040	汚泥供給ポンプ	移動脱水車車載
0050	薬品溶解装置	移動脱水車車載
0060	薬品供給ポンプ	移動脱水車車載
0070	空気圧縮機	移動脱水車車載
0080	ケーキ搬送用ベルトコンベア	移動脱水車車載
0090	脱水機制御盤	移動脱水車車載
0100	PAD溶解装置盤	移動脱水車車載
0110	No.1汚泥移送ポンプ(投込み式水中ポンプ)	東部浄化センター内
0120	No.1給水ユニット	東部浄化センター内
0130	乗継コンベア	東部浄化センター内
0140	No.2汚泥移送ポンプ(投込み式水中ポンプ)	中央浄化センター内
0150	No.2給水ユニット	中央浄化センター内

御調町公共下水道マンホールポンプ対象施設一覧表 (No.1)

市処理区

注) 各マンホールポンプ個所はポンプ2台設置

ポンプ所名称		メーカー	製造年月	ポンプ型式	制御盤形式	ポンプ仕様		口径 (mm)	吐出量 (m ³ /min)	全揚程 (m)	原動機 (kw)
No.1	三谷屋駐車場横	トリシマ	平成23年3月	T/USN80W1.5	屋外自立型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.320	5.00	1.5
No.16	平松自動車横	日立	平成17年	SUV 100-65.5	屋外自立型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	100	1.420	8.65	5.5
No.19	高垣瓦裏	トリシマ	平成17年1月	T/USN80W1.5	屋外自立閉鎖形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.270	5.70	1.5
No.37	八木診療所前	日立	平成15年	SUVM 80-65.5	屋外自立型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.492	10.50	5.5
No.64	長尾宅横	トリシマ	平成14年3月	T/USN80W2.2	屋外自立閉鎖形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.474	7.40	2.2
No.75	御調商店街	トリシマ	平成23年3月	T/USN80W3.7	屋外自立型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.450	12.30	3.7
No.101	中国バス裏	クボタ	平成23年12月	KS-N 801AA	屋外自立型	着脱式水中ポンプ	ハンクログ	80	0.450	3.20	1.5
No.105	和木電機横	クボタ	平成23年12月	KS-N 801AA	屋外自立型	着脱式水中ポンプ	ハンクログ	80	0.450	6.00	1.5
No.140	小和田サッシ	トリシマ	平成23年3月	T/USN80W1.5	屋外自立閉鎖形	着脱式水中ポンプ	ハンクログ	80	0.180	4.00	1.5
No.141	金野宅口	トリシマ	平成16年2月	T/USN80W5.5	屋外自立閉鎖形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.474	12.40	5.5
No.160	消防器具庫横	日立	平成15年	SUVM 80-62.2	屋外自立型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.480	6.31	2.2
No.183	さつき団地	クボタ	平成24年1月	KS-N 6507AA	屋外自立閉鎖形	着脱式水中ポンプ	ハンクログ	65	0.042	7.50	0.75
No.200	旧神西住宅	トリシマ	平成15年2月	T/USN80W2.2	屋外自立閉鎖形	着脱式水中ポンプ	ハンクログ	80	0.306	7.10	2.2
No.206	岡田車輛横	クボタ	平成24年1月	KS-N 6507AA	屋外自立閉鎖形	着脱式水中ポンプ	ハンクログ	65	0.054	3.00	0.75
No.210	そふとう橋	トリシマ	平成23年2月	A/SURL[65]W1.5	屋外自立型	着脱式水中ポンプ	ハンクログ	65	0.320	3.50	1.5

御調町公共下水道マンホールポンプ対象施設一覧表 (No.2)

上川辺処理区

注) 各マンホールポンプ個所はポンプ2台設置

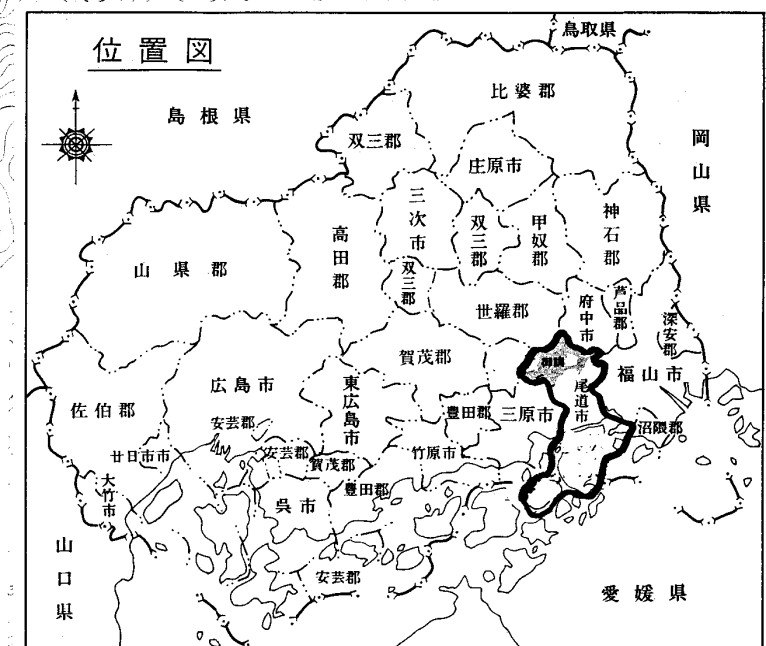
ポンプ所名称		メーカー	製造年月	ポンプ型式	制御盤形式	ポンプ仕様		口径 (mm)	吐出力 (m ³ /min)	全揚程 (m)	原動機 (kw)
No.1	府中市谷組	トリシマ	平成13年3月	T/USN80W1.5	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.270	4.5	1.5
No.2	大蔵タイコウタウン	トリシマ	平成12年11月	T/USN80W3.7	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.265	10.5	3.7
No.3	大蔵集会所	日立	平成12年	SUV 80-61.5	屋外自立閉鎖型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.265	5.0	1.5
No.4	上川辺公民館	日立	平成12年	SUV 80-63.7	屋外自立閉鎖型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.288	12.0	3.7
No.5	白太 横田横	日立	平成12年	SUV 80-62.2	屋外自立閉鎖型	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.265	7.5	2.2
No.6	本 浦上宅横	トリシマ	平成12年11月	T/USN80W3.7	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.432	9.2	3.7
No.7	本 森高石油	トリシマ	平成13年2月	T/USN80W1.5	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.288	4.5	1.5
No.8	本 天理教前	トリシマ	平成12年11月	T/USN80W2.2	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.270	7.5	2.2
No.9	中根橋	トリシマ	平成13年1月	T/USN80W3.7	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.270	11.0	3.7
No.10	平 江国川	トリシマ	平成14年3月	T/USN80W2.2	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.162	8.4	2.2
No.11	中原集会所	トリシマ	平成14年11月	T/USN80W1.5	屋外用鋼板製閉鎖自立形	着脱式水中汚水ポンプ	ボルテックス	80	0.162	4.5	1.5

処理場・マンホールポンプ位置図（市処理区）

凡 例（市 処 理 区）			
位置	マンホールNo	電話番号	製造社
①	No.101	76-3184	日立
②	No.37	76-3208	日立
③	No.75	76-3179	日立
④	No.105	76-3209	日立
⑤	No.200	76-3730	西島
⑥	No.140	76-3997	西島
⑦	No.1	76-3207	日立
⑧	No.206	76-3494	西島
⑨	No.160	76-3214	日立
⑩	No.16	76-3185	日立
⑪	No.210	76-3355	クボタ
⑫	No.64	76-3371	西島
⑬	No.19	76-3952	西島
⑭	No.183	76-3372	西島
⑮	No.141	76-3039	西島

環 境 基 準 点	
水 域 名	芦田川水系御調川
地 点 名	御調川2
類 型	A-1

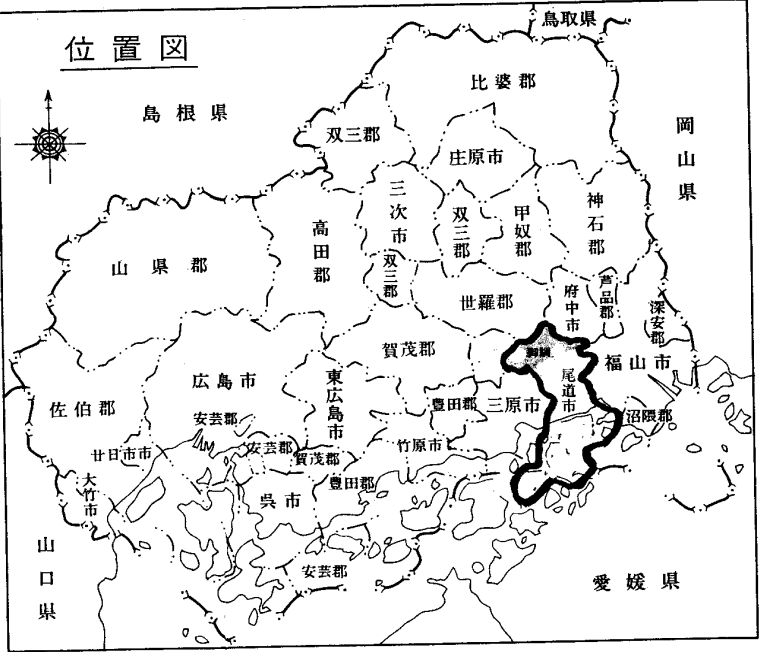
位置図



処理場・マンホールポンプ位置図（上川辺処理区）

環境基準点	
水域名	芦田川水系御調川
地点名	御調川2
類型	A-Ⅰ

凡 例（上川辺処理区）			
位置	マンホールNo	電話番号	製造社
①	No.1	0847-43-8500	西島
②	No.2	76-1907	西島
③	No.3	76-2623	日立
④	No.4	76-2624	日立
⑤	No.5	76-2625	日立
⑥	No.6	76-0149	西島
⑦	No.7	76-1268	西島
⑧	No.8	76-0144	西島
⑨	No.9	76-3766	西島
⑩	No.10	76-3508	西島
⑪	No.11	76-1611	西島



特記別表4 環境計測に係る業務

1. 水質試験

業務区分	目的	内容
水質分析	流入水及び放流水について、維持監理に必要な項目を分析し、維持管理状況を把握するとともに、放流水質の監視を行う。	別添要領書1
汚泥性状分析	汚泥の各処理過程での性状を把握して、汚泥処理を適正に管理する。	別添要領書1

2. 水質試験補助

業務区分	業務内容
発注者が行う採水業務に係わる補助業務	<ul style="list-style-type: none"> ・採水に係る安全・衛生対策 ・採水
発注者が行う水質試験で使用する器具洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ・器具の洗浄

特記別表5 物品等の調達・管理に関する業務

1. 御調町中央浄化センター

物品等の名称	予定数量／年	規格等
① 固形塩素	310kg	日曹メルサンR300N又は同等品 日産化学ウレオライトL-90又は同等品
② 汚泥処理用高分子凝集剤	440kg	イシフロックIZ-89AK4又は同等品

2. 御調町東部浄化センター

物品等の名称	予定数量／年	規格等
① 固形塩素	255kg	日曹メルサンR300N又は同等品 日産化学ウレオライトL-90又は同等品
② 汚泥処理用高分子凝集剤	130kg	イシフロックIZ-89AK4又は同等品

特記別表6 業務の報告等

提出書類	記載事項	提出期限
1. 業務日誌に記載すべき事項	①天候、気温、雨量	翌日
	②業務従事者職氏名	
	③操作・作業内容及び処理水量	
	④ユーティリティ・その他物品の使用数量等	
	⑤主要設備の運転、監視記録	
	⑥その他必要事項	
2. 毎月の業務報告書に記載すべき事項	①業務日誌の総括	翌月の5日
	②業務日誌の①③④の月集計	
	③保守点検、修繕、調整等の実施記録	
	④環境計測の実施記録	
	⑤事故、故障、苦情等の発生及び対応記録	
	⑥施設管理業務の実施状況及び結果	
	⑦その他必要事項	
3. 年間の業務報告書に記載すべき事項	①毎月の業務報告書の総括	年度末
	②技術提案事項の客観的評価と実現化策	
	③その他必要事項	

※業務報告書の提出は翌日が祝休の場合は、その翌日とする。

特記別表7 流入基準を著しく逸脱した流入水と認められる場合

流入水に関する基準は以下のとおりとする。

なお、流入水が下記の基準を満たさない場合は、受注者は緊急措置を講じるとともに、その事態の内容、想定される影響及び緊急措置の内容を、速やかに発注者に報告すること。

(1) 御調町中央浄化センター

① 流入水量

項目	単位	基準	備考
日平均流入水量	m ³ /日	910	流量計測定結果(日平均)
日最大流入水量	m ³ /日	1,140	流量計測定結果(日最大)
時間最大流入水量	m ³ /日	2,180	流量計測定結果(時間最大)

② 流入水質

項目	単位	基準	備考
pH	—	6.8～7.7	受注者による計測結果(日最大)
透視度	度	3以上	受注者による計測結果(日最大)
BOD	mg/L	600以下	受注者による計測結果(日最大)
COD	mg/L	400以下	受注者による計測結果(日最大)
SS	mg/L	600以下	受注者による計測結果(日最大)
大腸菌群数	個/mL	1,000,000以下	受注者による計測結果(日最大)
T-N	mg/L	60以下	受注者による計測結果(日最大)
T-P	mg/L	12以下	受注者による計測結果(日最大)
その他下水道法施行令第9条の4に掲げる物質	—	当該各号に定める数値	受注者による計測結果(日最大)

(2) 御調町東部浄化センター

① 流入水量

項目	単位	基準	備考
日平均流入水量	m ³ /日	280	流量計測定結果(日平均)
日最大流入水量	m ³ /日	370	流量計測定結果(日最大)
時間最大流入水量	m ³ /日	700	流量計測定結果(時間最大)

② 流入水質

項目	単位	基準	備考
pH	—	6.8～7.6	受注者による計測結果(日最大)
透視度	度	3以上	受注者による計測結果(日最大)
BOD	mg/L	1,100以下	受注者による計測結果(日最大)
COD	mg/L	600以下	受注者による計測結果(日最大)
SS	mg/L	1,600以下	受注者による計測結果(日最大)
大腸菌群数	個/mL	1,000,000以下	受注者による計測結果(日最大)
T-N	mg/L	90以下	受注者による計測結果(日最大)
T-P	mg/L	17以下	受注者による計測結果(日最大)
その他下水道法施行令第9条の4に掲げる物質	—	当該各号に定める数値	受注者による計測結果(日最大)

別添要領書1 水質測定に係る業務

1. 受注者は、要求水準書に定める放流水質契約基準及び脱水汚泥契約基準、その他契約図書に定める維持管理に係る要件を達成するために、以下に定める水質測定を実施しなければならない。

(1) 日常水質分析

放流水質及び発生汚泥性状の目標基準及び各種の維持管理に係る要件に適合させるために、日常の流入水質、放流水質、発生汚泥性状を計測、記録する作業。なお、計測が必要な項目及び頻度は、別紙1, 2を参照のこと。

(2) 異常時水質分析

放流水質及び発生汚泥性状が、目標基準または遵守基準を超えた場合に必要とされる流入水質、放流水質、脱水汚泥含水率の計測、記録作業。

(3) 分析結果の解析

日常及び異常時水質分析結果により、測定したデータの整理、解析、報告書の作成を行う作業。分析結果により運転方法や保守点検方法の改善を図るもの。

(4) 異常時の水質測定

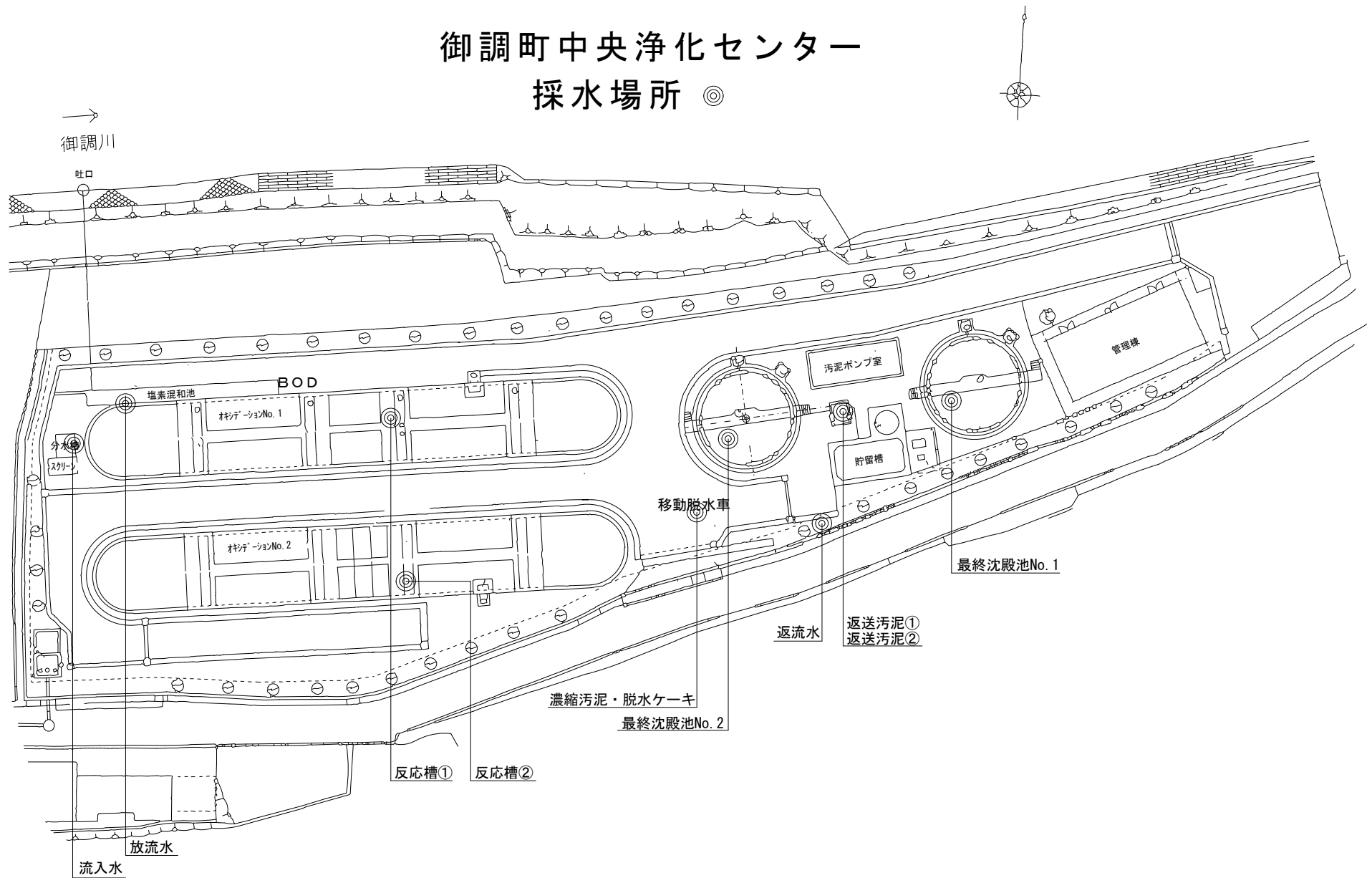
環境への影響が予見され、または発生した場合に必要となる水質測定。

2. 受注者は、前項に定めるもの以外でも、必要に応じて水質測定とその分析を行い、これを運転操作等に反映させなければならない。
3. 受注者は、契約図書の定めにより法定試験を行う場合は、計量証明書を発行できる機関に委任しなければならない。ただし、受注者自らが計量証明書を発行できる場合は、その限りでない。
4. 受注者は、水質測定による分析試験結果を継続的に記録し、必要な帳票類を調製しなければならない。
5. 受注者は、放流水質及び発生汚泥性状に係る各種法令等を熟知し、その定めに従わなければならない。
6. 受注者は、各種分析試験で使用する試薬の廃液等を、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年12月25日法律第137号)に基づいて適正に処理し、その処分方法、処分先等を明示した報告書を、発注者に提出しなければならない。
7. 受注者は、本件施設内の水質試験室及びその配置器具等の清掃を常に心がけ、整理整頓に努めなければならない。
8. 受注者は、分析試験に使用する毒劇物の取扱いに十分注意し、安全を期するとともに、薬品類の在庫管理や施錠管理を行い、盗難または紛失を防止しなければならない。
9. 受注者は、発注者から貸与された試薬、器具、消耗品類等を消費、消耗、毀損した場合は、受注者により適宜補充し、履行期間終了時には、発注者から、本件業務開始時に貸与されたものと同等のものを返還しなければならない。
10. 受注者は、水質測定のための試料採取にあたっては、代表的な試料となるように採取場所に留意し、その分析試験結果に疑義が生じないよう必要な措置を講じなければならない。ただし、法令または契約図書に採水方法等が定められている場合は、その定めに従わなければならない。
11. 受注者は、この要求水準書に定めのある分析試験については、下水の水質の検定方法等に関する省令(昭和37年厚生省、建設省令第1号)及び同省令で引用する排水基準を定める省令の規定に基づく環境大臣が定める排水基準に係る検定方法(昭和49年環境庁告示第64号)、日本工業規格、その他関係する規程

並びに社団法人日本下水道協会編「下水試験方法」に定める検定方法により行わなければならない。

12. 受注者は、この要求水準書に定めのない分析試験については、受注者が定める方法により行うことができる。その場合、その測定精度については、受注者の裁量により確保しなければならない。
13. 受注者は、水質測定に用いる機器類について、その測定精度が確保できるよう、定期的に点検整備及び消耗品の交換等を行わなければならない。

御調町中央浄化センター 採水場所 ◎



御調町東部浄化センター 採水場所 ◎

